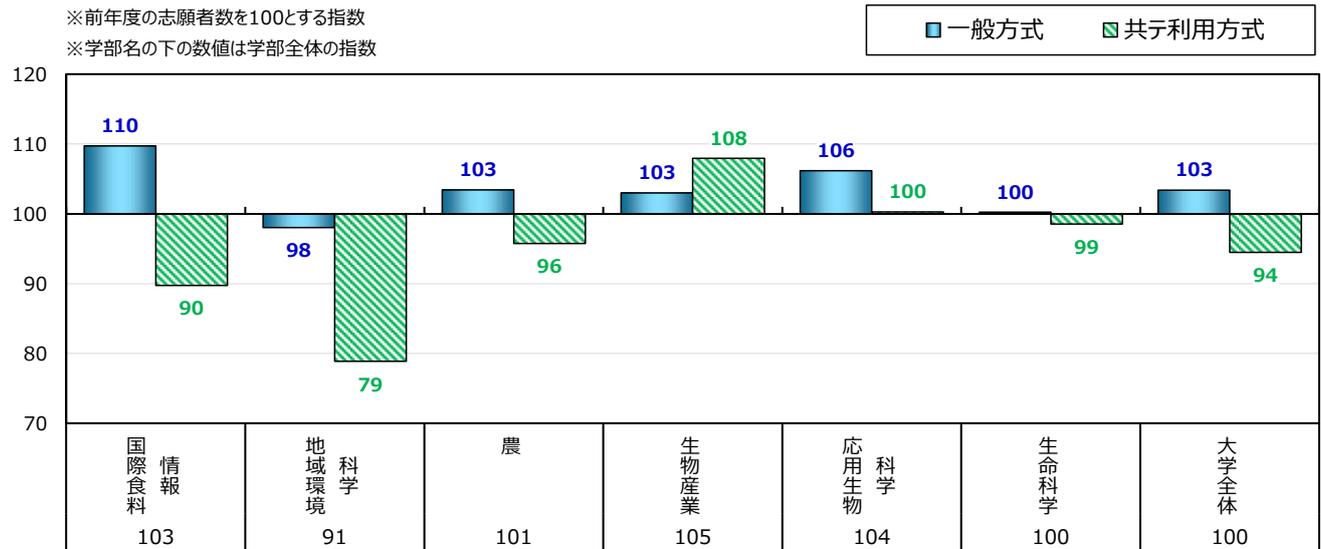


東京農業大：大学全体では微増だが、7年ぶりに増加

一般：+489人 共テ：-390人



COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、99人(100)の微増、3年連続で前年度比±2%以内の小幅な増減。なお、増加は7年ぶり。学部別では、6学部中4学部で増加。増加の4学部では、生物産業(105)の指数が最も大きかった。一方で、地域環境科学(91)は減少。方式別では、一般方式は489人(103)のやや増加。共通テスト利用方式は390人(94)のやや減少。<共テ・前期3科目型>(83)の大幅減少が目立った。

<一般方式>

- 国際食料情報(110)は、4年ぶりに増加。学科別では、増減それぞれ2学科ずつ。(国際農業開発)(146)、(食料環境経済)(137)はいずれも大幅増加。一方で、(アグリビジネス)(76)は大幅減少、(国際食農科学)(86)は4年連続減少。
- 地域環境科学(98)は、前年度並。学科別では、増減それぞれ2学科ずつ。(生産環境工)(135)は大幅増加、(地域創成科学)は前年度大幅増加の反動はなく、前年度並。一方で、(森林総合科学)(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、(造園科学)は7年連続減少。
- 農(103)は、やや増加。学科別では、増加が3学科、減少が1学科。(デザイン農)(119)は2年連続減少の反動で大幅増加、(農)(104)はやや増加、(動物科学)(101)は微増。一方で、(生物資源開発)(95)は2年連続減少。
- 生物産業(103)は、やや増加。2018年度の改組以降では初めての増加だが、2018年度との比較では志願者数はほぼ半減。学科別では、(海洋水産)(128)、(北方圏農)(117)はいずれも大幅増加。一方で、(食香粧化)(78)、(自然資源経営)(84)はいずれも大幅減少。
- 応用生物科学(106)は、やや増加。2018年度の改組以降では初めての増加だが、2018年度との比較では志願者数は約4割減。学科別では、4学科中3学科で増加。(農芸化)(113)、(醸造科学)(109)は増加、(栄養科学)(103)はやや増加。一方で、(食品安全健康)(96)はやや減少。
- 生命科学(100)は、前年度大幅増加の反動はなく、前年度並。学科別では、(バイオサイエンス)(94)、(分子微生物)(97)はやや減少。一方で、(分子生命化)(113)は前年度大幅増加に引き続き、2年連続増加。

<共通テスト利用方式>

- 国際食料情報(90)は、前年度大幅減少に引き続き、2年連続減少。学科別では、増減それぞれ2学科ずつ。(アグリビジネス)(57)は大幅減少、(国際食農科学)(92)は減少。一方で、(食料環境経済)(114)、(国際農業開発)(110)は増加。
- 地域環境科学(79)は、大幅減少。学科別では、4学科とも減少。(森林総合科学)(69)、(造園科学)(81)、(地域創成科学)(81)は大幅減少、(生産環境工)(87)は減少。
- 農(96)は、前年度大幅減少に引き続き、やや減少。学科別では、4学科中3学科で減少。(生物資源開発)(86)、(農)(86)はいずれも2年連続減少、(動物科学)(94)は前年度大幅減少に引き続きやや減少。一方で、(デザイン農)(130)は大幅増加。
- 生物産業(108)は、増加。学科別では、増減それぞれ2学科ずつ。(海洋水産)(169)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(北方圏農)(105)はやや増加。一方で、(自然資源経営)(70)、(食香粧化)(77)はいずれも大幅減少。
- 応用生物科学(100)は、微増だが、4年ぶりに増加。学科別では、増減2学科ずつ。(醸造科学)(114)は増加、(栄養科学)(105)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。一方で、(食品安全健康)(91)は4年連続減少、(農芸化)(97)は前年度大幅増加の反動は小さくやや減少。
- 生命科学(99)は、前年度大幅増加の反動は小さく、前年度並。学科別では、(分子生命化)(91)は5年連続減少、(分子微生物)(88)は前年度大幅増加の反動で減少。一方で、(バイオサイエンス)(111)は2年連続増加。